誰もがイメージをカタチにできる場所に

これまで無かった、 和歌山の良さを活かしたハウススタジオを創り出した湯川さん。湯川さんが目指すのは、 誰もがイメージをカタチにできる場所。現在、 企業の撮影から個人の撮影まで幅広く利用されています。和歌山の事業者が作った商品を PR するための写真や動画を撮影することもあり、 ハウススタジオならではの、商品の良さが際立つ撮影ができているのではと考えています。

今後は撮影場所を提供するだけではなく、 撮影全般のサポートをしたいと言います。その１つがロケーションサービスです。湯川さんがオススメしたい和歌山のロケーション紹介に加えて、 撮影には欠かせないロケーション弁当（ロケ弁）のお店やカメラマン、 ヘアメイクなどを紹介するサービスだそうです。 これらの想いは自分ひとりが頑張るだけでは実現できず、 知人や他の事業者との協力が欠かせないと湯川さんは話します。ハウススタジオという一軒家から、 撮影という切り口で和歌山全体を盛り上げ、和歌山の良さを引き立てようとしているのです。

STUDIO ADDITION　湯川聡美 さん

和歌山県岩出市出身。大阪の専門学校を卒業後、ツアーコンダクターや東京で広告 CM 等の撮影スタイリストを経て、2022 年 8 月に東京から和歌山へ U ターン。 2023 年 3 月、 一軒家をまるごとリノベーションしたハウススタジオ「STUDIO ADDITION」をオープン。ハウススタジオの内部は「STUDIO ADDITION」HP や Instagram に掲載。

編集メンバーおすすめの一冊

南紀熊野 ROUTE42 国道 42 号線をめぐる旅

ヘメンディンガー 綾／著　丸山由起／写真　青幻舎

和歌山の魅力発信本といえば、この本！というほどおすすめしたい本です。紀伊半島をぐるっと走る国道 42 号線沿いのうち、和歌山県南部エリアの知られざる風景を、独自の視点から写真とエッセイで書かれています。この本で紹介されている場所の多くは、有名旅行ガイド本ではあまり紹介されない隠れた名スポット。和歌山で暮らす皆さんにもぜひ読んでいただきたい１冊です。

編集後記

今年の夏はとても暑かったですね。7 月に取材に行ったのですが、取材への道中あまりの暑さにヘトヘトになりながらの取材でした。

さて、今回は和歌山に U ターンし、ハウススタジオを起業した湯川聡美さんを取材しました。洗練された空間に、思わず「ここに住みたい‥」という声が漏れてしまいました！どんな作品の撮影に使われているのかお聞きしたのですが、それは秘密とのことで‥。皆さんが目にしたあの作品は、実はこのスタジオで撮影されたものなのかもしれませんね。ところで昨今、映画やドラマなどの撮影誘致に向けて全国各地の自治体が奮闘しているそうです。和歌山市でも最近では 2022 年に放送されたアニメ「サマータイムレンダ」の舞台として、現在も全国のアニメファンから注目を浴びています。これから、湯川さんの取り組みは和歌山市の魅力発信にますます影響するのではないでしょうか。今後の湯川さんの活躍が楽しみです！

和 the とは

「和 the」は和歌山市民図書館が発行する、まちの技・巧・匠を発信するフリーペーパーです。図書館がまちと接点をもち、まちが誇る文化や技術を発信しています。まだ知らない、ここ和歌山の魅力にぜひ触れてみてください。

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY
〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁 17 番地
開館時間 / 9:00〜21:00　TEL / 073-432-0010

和 the バックナンバーは、図書館 HP よりご覧いただけます

ホームページ　Instagram　facebook

和the ワーザ

WAZA for Local

16
2024.10.1 発行
TAKE FREE

一軒家が引き立てる和歌山の良さ

取材協力 :STUDIO ADDITION 湯川聡美さん

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

Blank space.

新たな撮影場所を一軒家に

和歌山が誇るワザ (技・巧・匠) を発信する和歌山市民図書館フリーペーパー・和 the。Vol.16 のテーマは 「和歌山の良さの発信」。魅力発信のための拠点づくりに取り組む湯川聡美さんを取材しました。

19 年ぶりに和歌山へ U ターン移住した湯川さんは、和歌山市三葛にある和歌川沿いのロケーションに、一軒家の撮影用ハウススタジオを開業しました。ハウススタジオとは、住宅を撮影スタジオとして貸し出す事業のこと。湯川さんは、 こだわりの家具や小物を取り揃えた一軒家をハウススタジオとして仕立てています。写真や映像作品の撮影のほか、ワークショップや展示会などレンタルスペースとしても利用でき、 プロだけでなく、 誰でも利用できるそう。ハウススタジオは東京や大阪などでは多いものの、和歌山ではあまりないようで ...

一体なぜ、 湯川さんは和歌山でハウススタジオを開業したのか、その先にある湯川さんの展望とは？

一軒家から和歌山の良さを引き立てる湯川さんのワザに迫ります。

昨今、全国各地で民間事業者が行う映画や音楽 PV 等の映像作品の撮影を公的機関が誘致し、 撮影のスムーズな進行をサポートする取り組みが行われています。和歌山市では市役所が 「和歌山市フィルムコミッション (FC)」としてその役割を果たしています。FC の狙いはまちのイメージアップや観光振興・観光誘客を図ること。まちの風景が外へ発信されることで、その地域で暮らす人たちの「まちへの誇り」 の醸成につながることも目指しているようです。市内では、特徴的な風景のポルトヨーロッパや、美しい海岸線を望む加太、さらには和歌山市商工会議所でも映像作品の撮影が行われています。

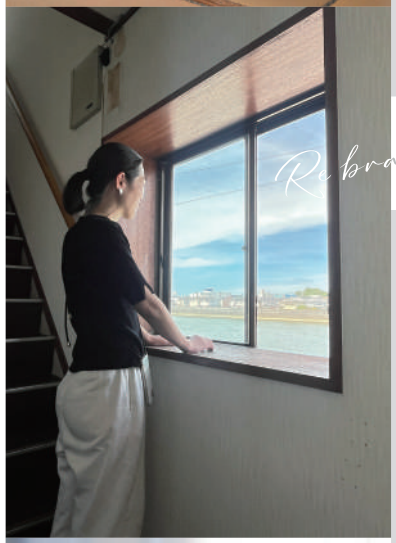
location Wakayama.

和歌山市の撮影事情

Make something.

和歌山にないものをつくる

東京で広告等 CM のスタイリストとしての経験を重ねていた湯川さん。ある時、 東京の撮影地、 海外のクライアント・広告代理店をリモートで繋ぐ撮影を経験することに。場所に縛られない撮影の可能性を実感し、 このような撮影を和歌山でできればと思いました。そんな中、 たまたま撮影の下見に訪れた鎌倉のハウススタジオで、細部までこだわり抜かれた空間を目の当たりにし、「このような場所を和歌山で作りたい」 と心を動かされたそうです。ハウススタジオの最大のメリットは柔軟な利用ができること。これまでの経験から公共の場所だと撮影に制約がかかることもありますが、 天候に左右されず確実に撮影できることで、 より撮影しやすいまちになると確信したそうです。そんなハウススタジオが和歌山市内にないこともリサーチし、湯川さんは和歌山で事業を立ち上げることを決意しました。



Rebranding.

和歌山の良さを活かす

ハウススタジオを作る上で大切にしたのが、「自分ならこんな場所がほしい !」という想いに任せることでした。イメージ通りの物件を手に入れた湯川さんは、撮影スタイリストとしての経験を活かし、3 階建ての一軒家・計 6 部屋をおしゃれで使いやすい空間に自らコーディネートしました。ハウススタジオを作るにあたり、 湯川さんは「和歌山の良さ」 を最大限感じられるようにしたと話します。その良さとは 「日々変わりゆく自然の風景」。いつも当たり前のように見ている風景が実はとても美しく尊いことを、 和歌山に戻ってきて改めて感じたと言います。そんな自然を活かしたスタジオにするために、物件選びでは海・山・川が近いことに加えて、関西国際空港からのアクセスの良さを重視したそうです。特にスタジオの 2 階から眺める和歌川の風景がお気に入りなのだとか。

こうして、湯川さんが理想とする空間が作られたのです。